

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	鹿児島県指定 第4670900150号
法人名	医療法人 慈 和 会
事業所名	大口病院 グループホーム つどい
訪問調査日	平成 22 年 3 月 23 日
評価確定日	平成 22 年 4 月 24 日
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構



○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかかわる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年3月23日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670900150号		
法人名	医療法人 慈和会		
事業所名	大口病院 グループホーム つどい		
所在地	鹿児島県伊佐市大口大田124-3 (電話) 0995-23-0820		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号		
訪問調査日	平成22年3月23日	評価確定日	平成22年4月24日

【情報提供票より】 (平成22年2月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	6 人	常勤6人	非常勤0人 常勤換算5.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	2,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—	
食材料費	朝食	150 円	昼食	300 円
	夕食	350 円	おやつ	0 円
	または1日当たり	800 円		

(4) 利用者の概要 (2月18日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名	
要介護1	2名	要介護2	2名			
要介護3	5名	要介護4	0名			
要介護5	0名	要支援2	0名			
年齢	平均	88歳	最低	74歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大口病院	県立北薩病院	こうき歯科医院
---------	------	--------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、開設以来、女性のみが入居している。入居の時には、ウェディングドレスで「つどいの花嫁」姿を着付けして歓迎し、入居者と職員が交歓し馴染みの関係を深めている。その写真が、ホームに飾られて思い出の記録となっており、女性のみホームとしてユニークな取り組みである。各部屋には家族ノートが備え付けられ、ホームと家族との連絡が密にとられて、日々の支援に生かされている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	職員を育てる取り組みは、研修計画を作成し段階に応じた研修に参加できるようにし、改善している。また、災害対策は、夜間を想定した訓練も実施し、改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員は時間をかけて自己評価に取り組んでいる。地域密着型サービスの充実を具体的な目標として、評価を活かし改善に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議は定期的開催されている。民生委員によるボランティア参加の提言や、自治会の回覧板配布と行事内容の広報など、充実した意見をサービスの向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	職員は家族と、家族会参加時や来訪時に個別面談をしたり、家族ノートでの意見や要望を聞くなど、工夫している。家族の意見等に対しては、職員で話し合いを行い、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており、地域の運動会や春の市・敬老会等に参加している。民生委員協議会によるボランティアの来訪が毎月あり、利用者の楽しみになっている。また専門学校生の研修受け入れや母体医療機関の受診者やデイケアの人々との交流が行われている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義と役割、慣れ親しんだ地域で暮らし続けるための理念を、職員の意見を集約して見直しを行い作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関・ホール・事務所に掲示し、パンフレットにも掲載している。ミーティングや申し送り時に理念を確認し合い共有に努め、日々のケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地域の運動会や春の市・敬老会等に参加している。民生委員協議会によるボランティアの来訪が毎月あり、利用者の楽しみになっている。また専門学校生の研修受け入れや母体医療機関の受診者やデイケアの人々との交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は、時間をかけて自己評価に取り組んでいる。地域密着型サービスの充実を具体的な目標として、評価を活かし改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的開催されている。民生委員によるボランティア参加の提言や、自治会の回覧板配布と行事内容の広報など、充実した意見をサービス向上に活かしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市連絡協議会の研修会に参加している。またホーム便りを届けたり、ホームの現状やサービスの取り組みなどを報告している。市連絡協議会の講演にホーム側から講師を努めるなど、共にサービスの質向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行している「つどい便り」や家族ノート・通信等で、日々の暮らしぶりや身体状況、金銭管理を報告している。家族ノートには個別の担当者がこまかく記録しており、家族等との信頼関係に繋がっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は家族と、家族会参加時や来訪時に個別面談をしたり、家族ノートでの意見や要望を聞くなど、工夫している。家族の意見等に対しては、職員で話し合いを行い、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者・職員は馴染みの関係を重視したケアを心がけており、その思いを運営者が尊重して異動は皆無である。職員と利用者・家族等との馴染みの関係ができています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を作成している。外部研修は段階に応じた研修に参加し、ホーム内の勉強会時に研修報告がされ、職員の技術や知識の向上に努めている。資格取得者も数名おり、チャレンジ者に支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	伊佐・始良両地区の連絡協議会に加入し、役員としても活躍している。定期的に職員向上食事会に参加して意見交換をしたり、入居者と一緒に他ホームを訪問したり、見学研修受け入れの計画もあり交流が深まりつつある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者は病院や自宅に行き、本人・家族と面談し生活歴や思い・不安を十分に聞いている。また、ホームの見学や体験をしてもらい馴染んでもらえるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活を共にしながら、料理の味付けやそば打ち・行事食・ならわしなどを教わったり一緒にする中で発見したりしている。ありがとう、お世話になります等の言葉に励みももらいながら支えあっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	口頭や表情・言動を観察しながら把握に努めている。把握した事柄はフォローシートに記録して申し送り時に情報交換をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の状態や生活歴・希望を入居時に把握し、家族等の思いを聞き、カンファレンスで職員の気づきや意見を出し合って、それらを反映した本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に3ヶ月から6ヶ月間に見直しをしている。家族ノートや日誌・申し送り帖を活用しながらモニタリングを行い、その都度の状態変化と退院時の見直しをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診・姉妹や夫の病院見舞い・特別な外出の送迎など、必要な支援を柔軟に行っている。また24時間健康管理体制の契約もできており、家族等の安心感に繋がっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診・通院・訪問医療・歯科治療・往診など、本人や家族の希望しているかかりつけ医の医療の継続ができるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対して、母体医療機関と24時間医療連携できる契約をしている。ホームが支援する指針を定めており、職員も共有している。看取りの事例があり体制はできている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の意識向上を図るため、尊厳に対する関わり方について、ミーティング時に話し合っている。入居者の誇りやプライバシーを損ねないように、声かけや対応に留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の動作など、その人の生活リズムと身体状況を大切にしながら、理念に添ったケアをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホーム菜園の野菜を収穫したり、下ごしらえ・味見・茶碗洗い等、職員と一緒にしながら食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回～3回の入浴日は決められているが、一人ひとりの希望や体調に合わせて、入浴の支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	雑巾縫い、味噌や漬物・梅干作り、読書、ランプやカルタ・パズル、洗濯物たたみ、居室タンスの整理など、本人の趣味や特技を発揮できるように支援している。大型スーパー・商店での買い物、身内の見舞い等、気晴らしの支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には散歩や買い物、デッキや裏庭での日光浴、喫茶店や食事会に出かけるなど、閉じこもらない支援を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていない。見守りに努め外出の際は一緒に出かけている。入居者は開放的で自由な生活をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもと、昼・夜間想定をした避難訓練・経路・消火器使用法などの訓練を実施している。周囲の母体法人施設に協力体制ができており、安全確保されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の水分・食事量を記録して把握している。身体状況に合わせた食事形態も考慮されており、栄養バランスは栄養士のアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の一部分はバリアフリーになっている。ホール内は明るく換気や温度・湿度・音・採光に配慮が行き届いている。ベランダをウッドデッキに改装したり、ホールに仏壇や季節行事の装飾、生け花、パズル、本棚など、随所に工夫がされて、家庭的な共用空間作りである。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ラジオ・時計・ぬいぐるみ・寝具類・洋服ダンス・自作カレンダー・習字を掲示している。それぞれ馴染みの物が持ち込まれて、居心地よく過ごしている。		

※  は、重点項目。